青少年教育施設ボランティア実践のための意欲・能力を育成

ネイパル砂川

ボランティアセミナー２

１　事業のねらい

ボランティア活動についての基礎的な知識や技術を学び、青少年教育施設ボランティアとしての実践する意欲や能力を育成する。

２　事業の概要

■期日　R6.6.22(土)～23 日(日)　一泊二日
■対象　北海道医療大学学生
■人数　47 名（北海道医療大学のボランティア論の授業として）
■場所　北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川

３　プログラム

	13:00	13:30	15:30	19:30	21:00	22:00		
１日目	12:30～受付	出会いのつどい	活動１ 講義・交流	活動２ 野外炊飯 〈薪でご飯とカレーを作って食べる〉	活動３ ニュースポーツ 〈モルック等〉	入　浴 自由交流	消灯・就寝	

	9:30	10：30	11:30	12:30	13:00		
２日目	起床・朝食	活動準備	活動４ テント設営 〈撤去まで〉 荒天時：体育館	活動５ 障がいのある方への支援について	昼食	ふりかえり	13:00 解散

４　ねらいを達成するための活動の工夫

■野外炊飯での安全管理の方法を学ぶことを軸とした展開
・「活動１における野外炊飯の危険予知トレーニング」「野外炊飯」を実施することにより、安全管理の視点を意識しながらの実践を参加者が主体的に考えながら取り組めるようにした。
■ボランティアとしての活躍の場を想定したプログラム構成
・「野外炊飯」を始め、当施設のもつ「ニュースポーツのプログラム」「テントの立て方、片付け方」を学べるよう構成した。
■大学との連携
・「障がいのある方の支援について」の講師は、北海道医療大学の「ボランティア論」の担当でもある西郷氏が担当した。

危険予知トレーニング後の野外炊飯の様子

ニュースポーツ(モルック)の様子

５　事業の評価

■参加者の感想
・ボランティア活動を行う上で必要な知識を学んでからの実習により、自分たちが楽しむだけではなく実際に子どもを指導する場面を想定しながら取り組むことができた。
・教育施設のボランティア活動のみならず、福祉分野や災害ボランティアの活動でも役立つ知識や技能を得ることができた。
・今回学んだことを生かしてみたいと思い、これまで以上にボランティア活動をしたいと思った。

６　ねらいを踏まえた成果と課題

●当施設の活動を想定した内容をしながら、福祉分野でも役立つニュースポーツや障がい者支援の講義、災害ボランティアでも役立つテント設営等と幅広くボランティア活動全般への知識や技能を身に着けられる内容となった。
○大学の授業の一環であり、すべての学生がボランティア活動に積極的であるとは限らない。しかしながら本事業をとおして意欲を高められることから、より多くの学生にボランティア活動を広めるためには大学との連携は大切である。

企画のポイント

ネイパル砂川でのボランティアとしての技術を身につけるとともに、大学との連携促進を図る。